

知ってた？暮らしに役立つちょっといいところ

望海公園バーベキュー場

海を望みながら、家族で安心して集える場

2021年望海公園に新設されたバーベキュー施設。炉付きテーブルが全12卓あり、半数は屋根付き。約10名で利用可能な各卓には長椅子、テーブルとしても使える荷物置き場が備わっており、レジャーシートも敷ける広さです。リピーターが多く、気候の良い季節の週末は予約で満席になることも。利用日の2ヶ月前から予約できるのは播磨町民の特権です。

持参するのは、食材、炭、食器類、ゴミ袋、そして16m巻のアルミホイル?!実はこれが肝心。貸し出してもらえる炉には、安全面や火起こし、片付けの手間等を見越して、事前にアルミホイルがセットされており、それと交換するためのものです。1セット20分程かけて管理棟の作業室で職員さんによってひとつひとつ丁寧に仕上げられる炉はもはや匠の技。ごみは全て各自で持ち帰りが必要ですが、使用済みの炭の処理は火炉ごと全てお任せできます。

「ケガや落とし物等、困ったときは管理棟で相談してくださいね」と職員さん。管理棟が隣に

あるからこそ安心して利用することができます。無料駐車場からバーベキューエリアまでは徒歩すぐ。たくさんの飲み物や食材を持参しても手軽に荷物が運べるのは助かりますね。アルコールもOK!大型遊具のある広場で子どもとのびのび遊べるのも魅力。海沿いならではの自然を感じながら、家族、仲間と季節ごとの楽しみを見つけてみませんか。



望海公園 (播磨町ホームページ)



実はアルミホイルだけでなく、油はねガードも使われている。



バーベキュー施設 (望海公園)

住所: 播磨町古宮字小谷 102 番 9 ☎ 078-915-8000
BBQ 利用時間: 10 時~14 時 BBQ 設備予約場所: 望海公園管理事務所
管理事務所開館時間: 3 月~10 月は 9 時~17 時 / 11 月~2 月は 9 時~16 時
利用料: 屋根付き 1 卓 2000 円 / 屋根なし 1 卓 1500 円 (各税込) ※現金のみ
BBQ 設備予約受付時期: 播磨町住民は利用予定日の 60 日前~利用前日
播磨町以外の方は 30 日前~利用前日
休業日: 12 月 28 日~1 月 4 日 トイレ: ベビーシートあり 駐車場: 無料

ますます便利に!

イベントの案内やごみ回収日を前夜に通知してくれるなど、少しずつ充実してきた播磨町公式 LINE。災害発生時には、避難所の開設など播磨町からの情報が発信されるので、登録することが備えになりそうです。また近々、町内の公園遊具・道路などの破損情報を住民が報告できるサービスも始まるとか。まだの方は、早めの友だち登録を!



播磨町公式 LINE アカウント名: 播磨町 ID: @harimatown



読者アンケートご協力をお願いします!



「3×3 NO.4」のアンケートにご協力をお願いします。ご回答者から抽選で9名(3×3 名だけに!)の方に播磨町オリジナルグッズをプレゼント! また、アンケートフォームでは「3×3」住民ライター参加者も募集中です。 ※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます



▲播磨町オリジナルグッズ

3×3 トリビア



古宮村出身の偉人 ジョセフ・ヒコ

リンカーン大統領に会って握手をした、唯一の日本人と記録されているジョセフ・ヒコ(浜田彦彦)が江戸見物の帰りに海難事故に遭い、アメリカに渡ったのは13歳の頃、鎖国中の江戸時代末期でした。9年ぶりに帰国したヒコは英語が堪能な日本人として、日米外交の場で活躍。その後の日本では、外国人を追い出そうという攘夷運動が活性化。日本に外国事情を伝えたいという強い思いでヒコによって発行された日本で初めての新聞「新聞誌」はまさに身を危険にさらす行為であったことでしょう。新聞の父と称されるヒコが帰国後も忘れなかつた故郷への想い。若くして亡くした両親と家族のお墓を蓮花寺(播磨町北本荘7-1-33)に建てました。生家跡や碑、郷土資料館も併せて巡りたいものです。

バックナンバーはこちら



3×3 は、住民ライターが書いています!

大切な命の守り方を知り、備えることの大切さを感じています。できることから、一つずつ。 by け (子:5歳&3歳)
被災地で今起きていることをしっかり受け止めながら、全ての当たり前前に感謝しています。 by ま (子:6歳&3歳)
「自助」の重みを痛感しています。自助あつての共助。備えを今一度確認しなければ。 by か (子:9歳)
校了間近で能登の震災。できる範囲で今の気持ちに整えました。「まずは自助」が沁みます。 by 編集き (子:5歳)

3×3 (さんカケさん) 播磨町のちょっといいところ NO.04
発行: 2024年2月24日 播磨町役場
TEL 079-435-0355 (代表) / 079-435-0356 (企画課)
編集: 播磨町企画課・特定非営利活動法人ニュー☆ハリマ

兵庫県で一番小さなまち、播磨町。面積:約3km×3km(=9.13km²)にある、色んな「ちょっといいところ」をお届けします。新しく住む人もこれまで住んできた人も、ずっと保存したくなる播磨町の場所・人・ことに出会ってください。



特集 備えよう! 防災を気軽に学べる播磨町の〇〇



楽しみながら防災知識を学び、まち全体を強くする! みんなで「防災のはなし」を聞いてきました! 播磨町ではじめての総合防災訓練!

知ってた?暮らしに役立つちょっといいところ 海を望みながら、家族で安心して集える場——望海公園バーベキュー場 ますます便利に!——播磨町公式 LINE

観て・聴いて・体験して。 楽しみながら防災知識を学び、 まち全体を強くする！

播磨町消防団内に「女性分団」があることを知っていますか？消防庁によると、近年、全国で女性消防団員数は増加傾向にあるそうです。播磨町消防団女性分団は2006年8月に発足。現在14名の団員が、町内の消防・防災の啓発活動に励んでいます。メンバーのみなさんに、子育て真只中ではじめた活動を通して感じていることや住民に伝えたいことについて、じっくりお話を伺いました！

「へえ、はじめて知った」「胸骨圧迫って力があるね～」「できた、できた！」播磨町消防団女性分団による出前講習会の会場では、受講者のつぶやきや笑い声があちこちから聞こえてきます。「自分の命を自分で守るための知識を、どの世代の方にもわかりやすく。みなさんとコミュニケーションをとりながら伝えることを大切にしています」と、団員のみなさんが話してくれました。



劇や広報など、団員それぞれに色んな役割があるそう

防災を“自分ごと”に

女性分団は、今年で発足18年目。住民にむけた啓発活動のほか、今年度は全国女性消防操法大会にも出場。地域や学校で行う出前講習会は、防災劇や手遊び、簡易キットを用いた応急手当の練習など、受講者に合わせて内容を変え、観て・聴いて・体験して、防災を“自分ごと”として学



劇の日も胸骨圧迫の講習がありました

ぶ工夫が散りばめられています。

「幼稚園・小学校・いきいきサロンなど、依頼があれば町内どこへでも行きます。研修会で被災地での防災活動の話の聞いたり、資料集めをしたりして学んだことを活動にいかしています」と話すのは、団長の水谷さん。



分団長の水谷さん

防災知識、楽しみながら学んで

中でも住民から人気を集めているのは、防災劇。停電・断水時に備えた防災クッキングや、地震・火災発生時の身の守り方など、幅広いバリエーションを準備しています。劇の台本や小道具はすべて手作り。内容に最新情報を盛り込み、受講者やとりりしながら進める劇は、学びあり、笑いあります。

「住民一人ひとりに『もしものときは、こうすれ



小道具は全て手作りだそう



登場人物は「梶ヶ子（＝火事消し子）」「坊齋そなえ（＝防災備え）」など印象に残る名前！

ばいい』と思ってもらうのが私たちの役割です。劇は直接伝えられるので、分かりやすいと言ってもらえることが多く、みなさんが楽しみながら防災知識を身につけていくように感じます。そんな積み重ねが、まち全体の強さになっていくのかな、と思っているんです」

活動に好き・得意をいかして

団員のみなさんの大半は、お子さんが未就学児のときから活動を続けています。かつては、子どもを抱っこしたり、子守をしあったりしながら活動していたそう。団員より子どもの人数の方が多いような練習風景もあったといいます。

「練習の様子を見ていた子どもたちが、いつの間にかAEDのことを知っているということもありました。自分も子どもも、災害時にどうすればいいかわからないと『こわい』しか言えないけれど、身の守り方を知っていれば、こわいだけじゃなくなります。消防団活動をしなが、自分だけでなく、子どもたちも自然に防災について学んでいるような環境でした」と当時を振り返ります。

みなさん、入団の理由はさまざまです。防災劇

を見て「一緒に楽しいことをしたい!」と思った方、引越してきて地域でのつながりを探していた方、防災に興味があった方――。フルタイムで働いている方もいれば、実家が遠方の方もいます。背景も年代も異なるみなさんが、播磨町独自の啓発活動を考える中で、一人ひとりの好きなこと・得意なことを持ち寄り、いかしあいながら活動しています。



練習も本気で取り組みます！

一人ひとりの力で強いまちを

これから、消防団としてさらにしていきたいことはあるのでしょうか？そう伺うと、「一緒に活動する仲間が増えると嬉しいです。いろいろな発想の人が集まって、新しい啓発方法を考えていきたいですね。消防団の活動は、自分がいきいきできる場でありながら、子どもや家庭を守る勉強ができる場でもあります。子育てをしながら、“家庭育て”、ひいては“地域育て”にもつながる。消防に興味がある人が増えると、まち全体も強くなる。お子さんと一緒に活動でも大丈夫。私たちも自分の子どもは成長したので、今は孫を可愛がるような体制です」と、笑顔で話してくれました。



仲の良い様子が伝わってきました

お話の中に「まち全体が強くなる」という言葉が何度も出てきました。その言葉に、わたしたち一人ひとりが命の守り方を学び、考えることが、強いまちをつくることにつながるのだと、改めて感じました。女性分団が月1回発行している「けすぞう新聞」には、暮らしの中でできる防災対策や、消防団の活動についても掲載されています。播磨町のホームページで見られるので、ぜひチェックしてみてください！

【けすぞう新聞】
月1回発行、防災の基礎知識や消防団の活動についてお知らせしています。



▲けすぞう新聞バックナンバー



講演依頼、入団等のお問い合わせは播磨町企画総務部危機管理課へ（播磨町東本荘1丁目5番30号 ☎079-435-0991）

みんなで「防災のはなし」を聞いてきました！

播磨町の「わくわく出前講座」に「防災のはなし」があるらしい、と聞きつけた3×3編集部。家庭でできる防災について知ろう！と11月某日、みんなで受講しました。

当日は町内全戸配布の「総合防災マップ」を見ながら、危機管理課職員さん制作のスライドで進行。播磨町では津波がきたら「新幹線線路より北へ逃げる」など、家族で共有しやすい情報を教えてもらったり、職員さんの防災ポーチを見せてもらったり。「子どもと普段からできる防災って？」など、質問も飛び交いました。「災害時、まず必要なのは“自助”の力」と学んだ私たち。受講後、早速実践してみました！



家にある防災グッズを確認



備えなし、オール電化の家庭です。これは危ない！もしものときを考えて、受講後すぐに家族と一緒に家にある防災グッズを集めてみました。キャンプ用品として用意しているものや自転車用のヘルメット等は役立ちそうだけど、準備不足を感じてしまいます。でも、何より大切なのは、家族揃って防災について考える時間かもしれません。(by ま)

防災マップをもとに相談！



総合防災マップを見ながら、家庭での防災について相談しました。身の守り方、避難先、災害用伝言ダイヤルのこと。備蓄品の中身や保管場所も改めて確認を。「風呂の湯を一晚残す」「寝室にスリッパ・ホイッスルを置く」「避難場所を確認する」など、子どもと一緒に理由を考えながら取り入れています。(by け)



令和6年能登半島地震を機に、防災の見直しを考えている方も多いのでは。「播磨わくわく出前講座」は、5人以上のグループで気軽に申し込みます。もちろん無料。みんなで集まる機会にぜひ受講してみてください。詳細はサイトにて。



◀播磨わくわく出前講座



◀ハザードマップ

播磨町ではじめての 総合防災訓練！

12月3日、播磨町で初となる全住民対象の総合防災訓練が行われました。

防災無線とSNSによる地震発生のアナウンスに合わせ、各自がシェイクアウト訓練（地震の際の安全確保行動）を実施。参加者は非常持ち出し袋を手に避難所となる小学校へ向かいました。

私も子どもを連れて指定の小学校へ。体育館前には非常持ち出し袋を背負った方がずらり。避難所入所届を記入し中へ入ると、非常食や携帯トイレ等の紹介があり、防災士さんとお話もできました。校庭には消防車や救急車、給水車が待機し、消防団による消火器体験も。訓練に参加し実際に避難所へ足を運ぶことで、住民の顔ぶれや現場の雰囲気を感じ、防災について現実的に考えることができました。

災害時は救助がすぐに来るとは限りません。地域で協力し、安全で快適な避難所をつくれたら、安心材料になるはず。町では今後も防災訓練を実施予定。みなさんもぜひ家族で参加して、播磨町ならではの避難計画を育てていきましょう。(by か)

